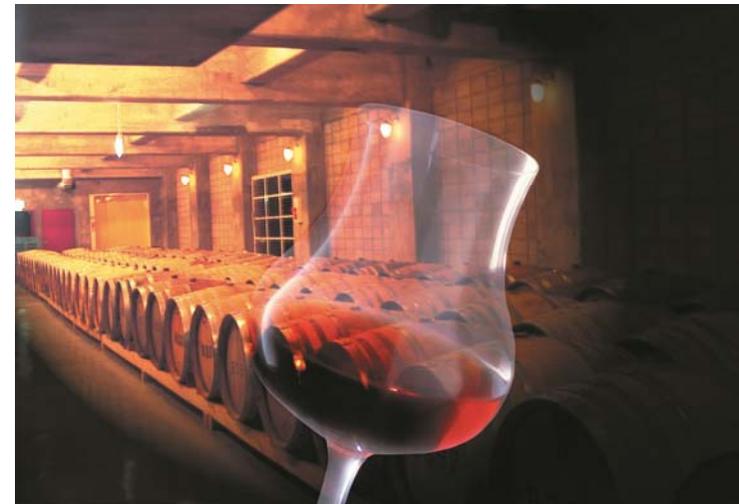




塩尻市における 口腔指導・訪問歯科健診 の現状と取り組み

塩尻市の地域ブランド
桔梗ヶ原 ぶどう ワイン



長野県 塩尻市 健康福祉事業部 健康づくり課
歯科衛生士 麻田 加代子

塩尻市の紹介

めざす都市像

確かな暮らし 未来につなぐ田園都市

人口 67,447人

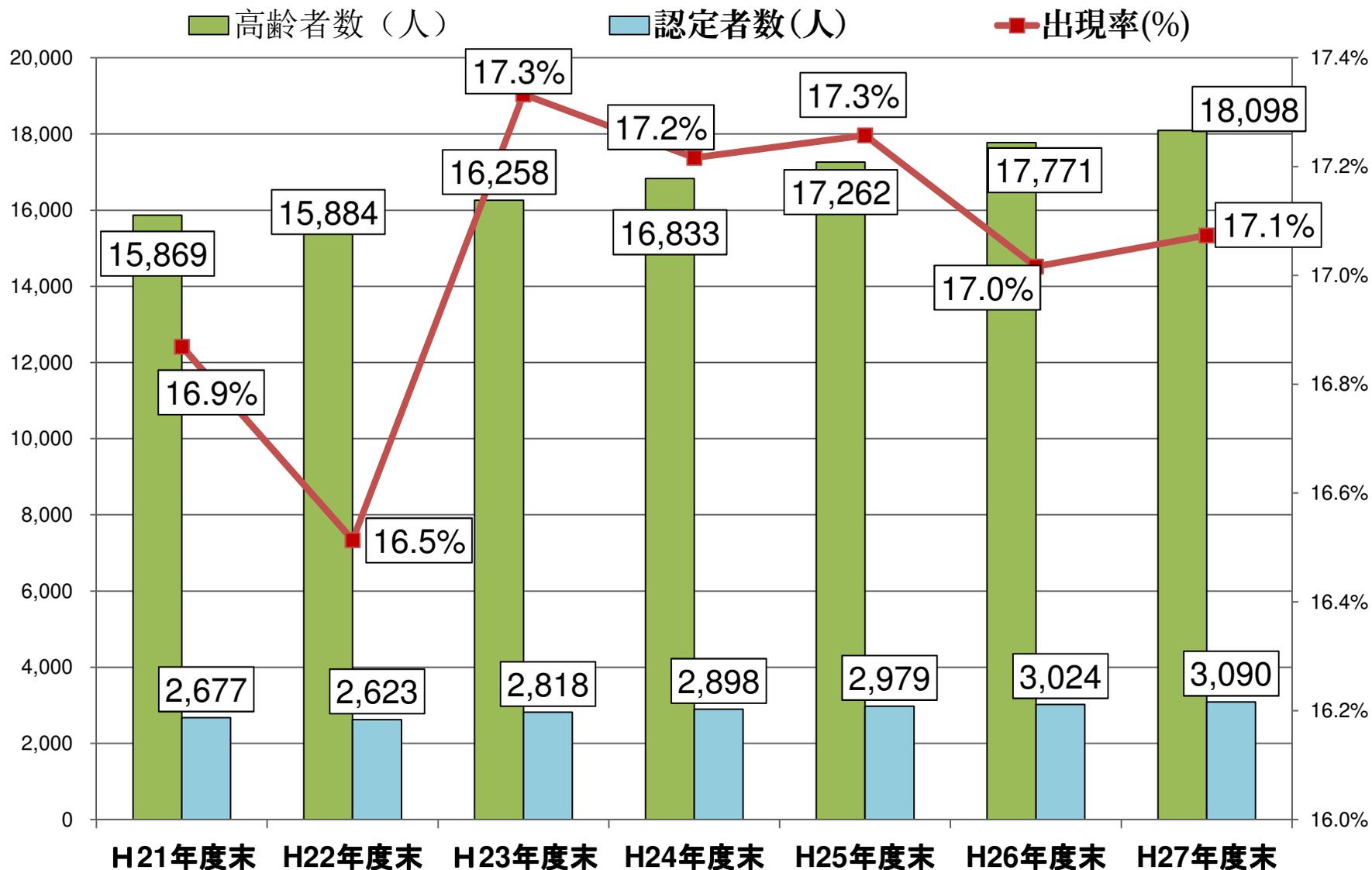
高齢化率 26.9%

後期高齢者数 9143人

平成28年4月1日現在



塩尻市介護認定者数・出現率の変化



塩尻市の高齢者の口腔状況

平均残存歯数

65歳 25.6本

70歳 22.5本

定期健診受診者

65歳 26%

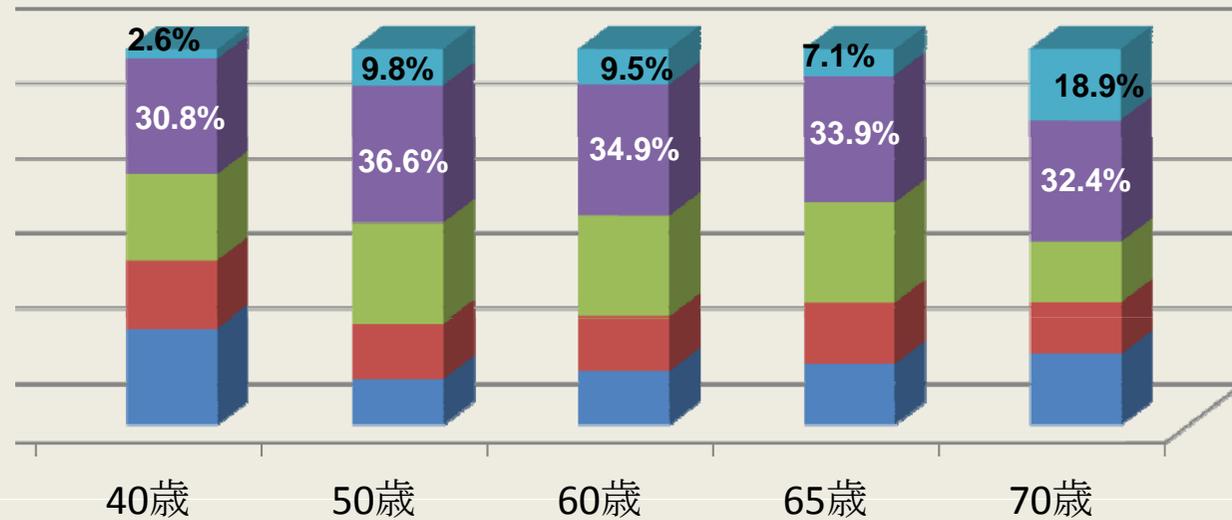
70歳 38%

- ・8020運動が定着し、自分の歯がある高齢者が増加している
- ・口腔内は歯石・歯周病などトラブルを持っている
- ・定期健診を受けている方は少ない

歯周病は生活習慣病であり、糖尿病・心疾患等とのかかわりが心配される

歯周病疾患状況

- 6mm以上ポケット
- 4～5mmポケット
- 歯石あり
- 出血あり
- 異常なし



資料：平成27年度塩尻市成人歯科健診受診者結果から

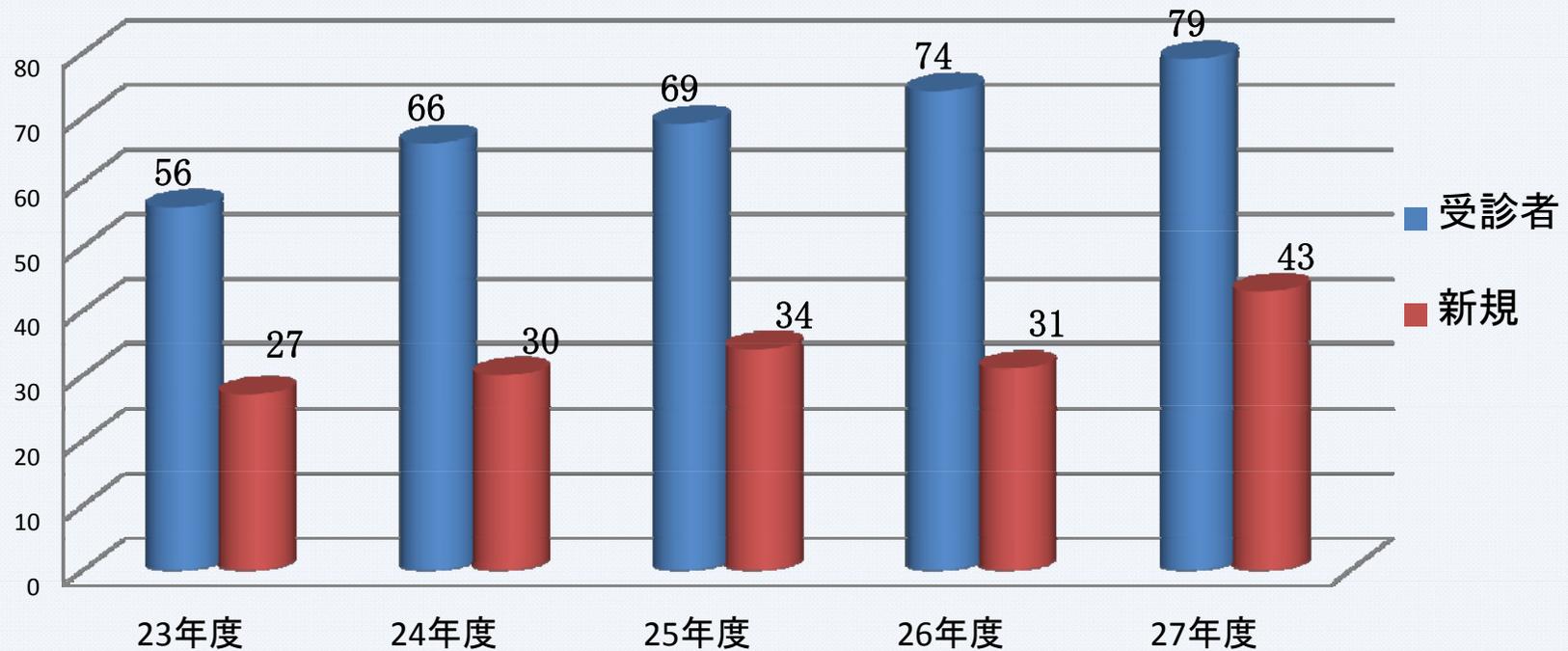
塩尻市の訪問歯科健診事業取組状況

		成果・課題
平成7年	医療機関との連携「在宅寝たきり老人等歯科健診事業」として発足した。	
平成24年	「在宅訪問歯科健診事業」と改め、障害者や歯科医院へ通院困難な方へも対象の幅を広げた。	訪問歯科健診受診者が増加した。
平成26年	「医療・介護連携推進協議会」発足 「いきいき手帳」作成	手帳を通して多職種が連携して、要介護者を支援する仕組みができた。
平成27年	○「医療・介護連携推進協議会」に歯科衛生士も参加 ○長野県後期高齢者医療広域連合の長寿・健康増進事業「在宅要介護者等への訪問歯科健診等」モデル事業に採択された。	○歯科衛生士の訪問件数が大幅に増加した。(H26、367件→H27、512件) ○「口腔と介護の結びつき」を他職種に理解してもらう必要がある。
平成28年	○医療・介護連携推進協議会の中に「口腔委員会」が立ち上がった。 ○後期高齢者医療制度事業の「高齢者の低栄養・重症化予防等の推進」で口腔に関する相談・指導、訪問歯科健診モデル事業の補助金申請を行った。	○歯科衛生士を1名増員した。 ○誤嚥性肺炎を予防し、口から食事をとり、最期まで在宅で生活することを目標に、歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・言語聴覚士・耳鼻科医師・内科医師等で検討していく。

在宅訪問歯科健診取組の概要

- 1 目的 : 介護を必要とする障害者、高齢者など通院が困難な者に、日常生活における歯科疾患を予防し、本人と介護者の口腔への不安を取り除くため、効果的な口腔ケアと口腔機能向上支援を行い、必要に応じて早期治療を促し、健康増進を図る。
- 2 事業内容 : 介護を必要とする障害者、高齢者に在宅訪問歯科健診を実施する。
- 3 対象者 : 介護を必要とする障害者、高齢者等の者 80名
- 4 委託医療機関 : 塩尻市内歯科医師
- 5 実施方法 : 歯科医師2名 歯科衛生士1名が自宅を訪問し、歯科健診を行う。
- 6 健診内容 : ○口腔内診査 ○簡易検査 ○カルテ記載 ○口腔写真撮影
○口腔状況及び口腔ケア方法を家族及び介護関係者に説明 等
- 7 実施回数 : 22回(予備日2回含)
- 8 歯科衛生士の対応 : 健診前に事前訪問、健診後のフォロー

在宅歯科健診受診者数



27年度、新たに健診に加わった方が増加した。これは医療と介護連携事業が立ち上がり、介護にかかわる方々が口腔への関心が高くなってきていると考えられ、多職種との連携が築かれてきている。

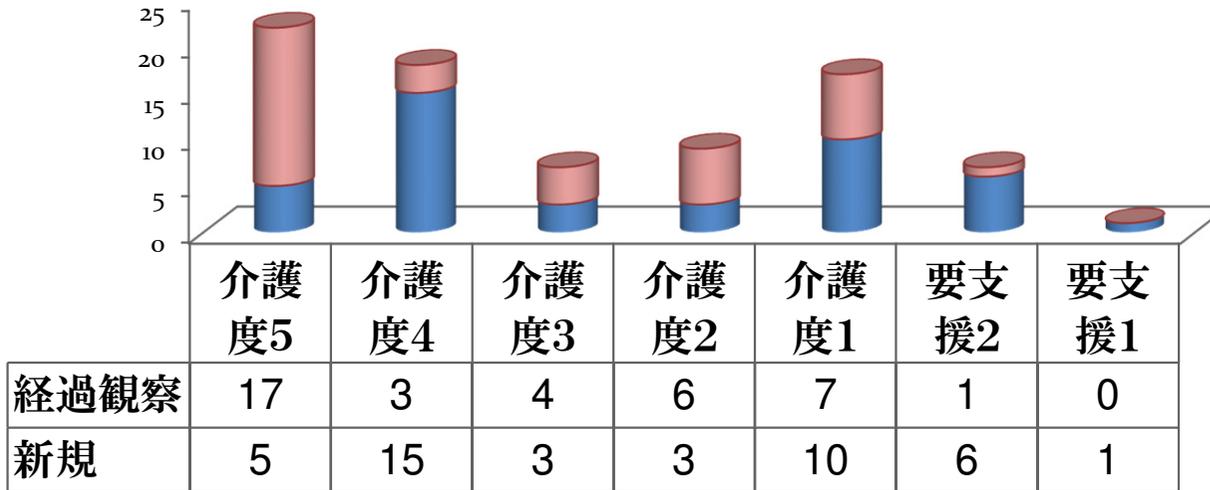
在宅訪問歯科健診の現状

	平均年齢	健全歯	処置歯	未処置歯	現在歯	義歯不良	義歯使用
25年	79歳	4.2本	6.6本	2.8本	14本	21人	20人
26年	80歳	4.8本	9.4本	2.8本	15.7本	18人	19人
27年	78歳	6.5本	8.2本	4.3本	19本	18人	19人

27年度 在宅訪問歯科健診受診者の口腔状況

性別	年齢	実績	実績の内 新規	口腔 ケア	義歯取 扱指導	経過観 察必要	義歯 不調	虫歯	歯周病	良好
男	40歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～64	1	0	1	0	1	0	1	1	0
	65～74	9	4	9	2	7	1	2	2	5
	75～84	15	9	10	6	10	2	3	8	7
	85歳以上	15	11	9	10	10	6	4	3	3
女	40歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～64	3	0	3	0	3	0	0	2	3
	65～74	8	3	7	2	8	1	4	3	4
	75～84	11	5	9	2	8	3	4	4	4
	85歳以上	17	11	13	8	10	5	5	4	7
	合計	79	43	61	30	57	18	23	27	33

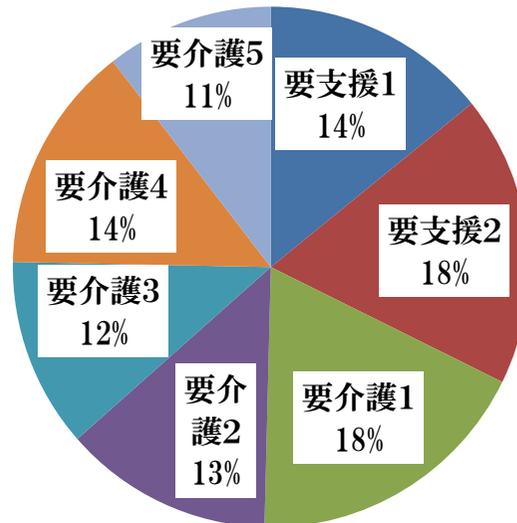
介護度別受診者数



治療が
難しい

- 《介護度3～5になると》
- ・体制の維持が難しい
 - ・意思疎通が困難
 - ・全身疾患のリスクが高い

介護度の内訳 (認定者3090人)

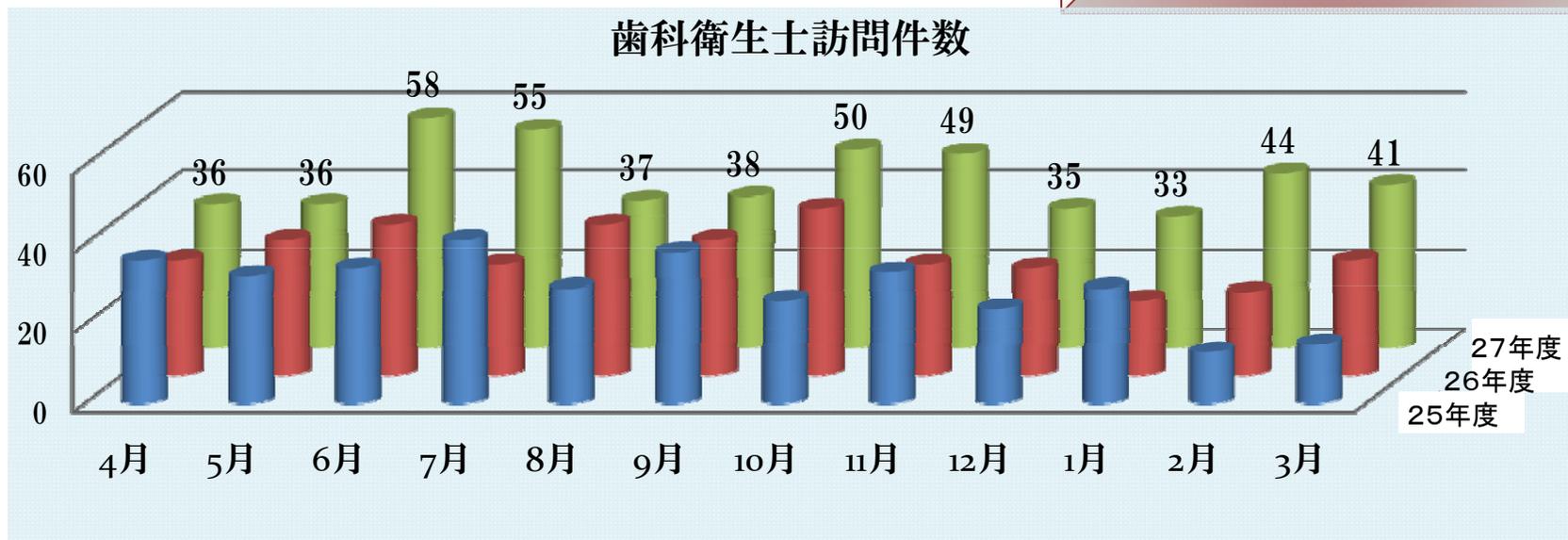
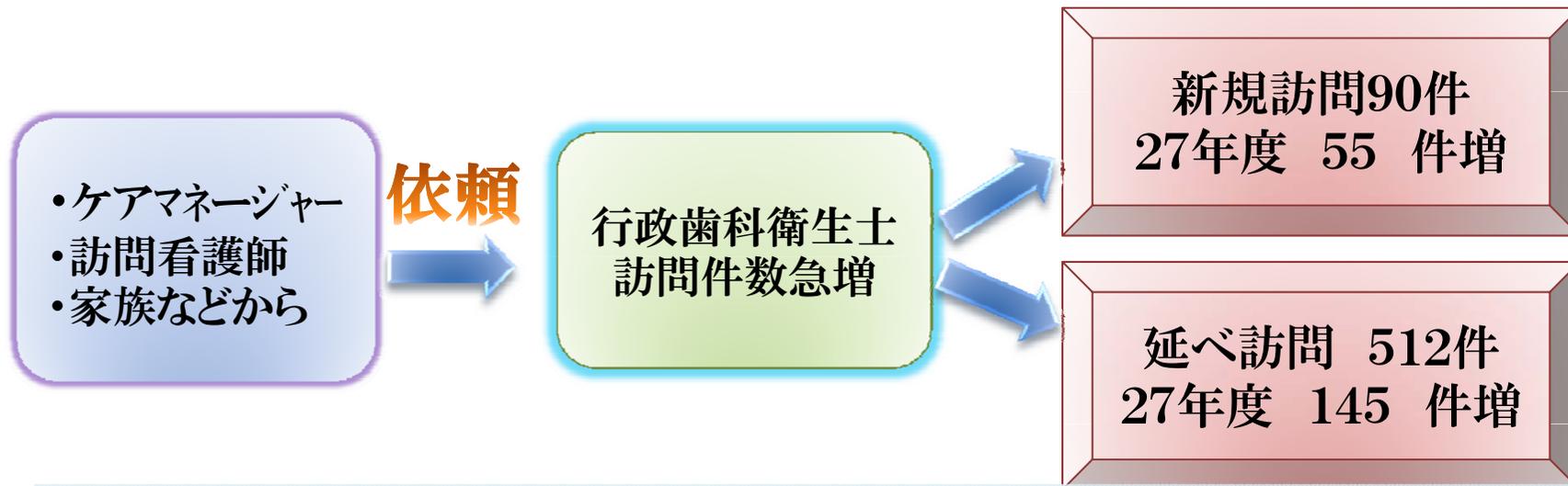


気づかない

《要支援～介護2くらい》

- ・自分から口の中を見せない
- ・口腔機能の低下
- ・歯ブラシの操作が上手くできない

■ 医療介護連携推進協議会が動き始めてから ■



なぜ訪問依頼が増加したのか？

医療と介護連携推進協議会で多職種連携による「高齢者の食べるを支える」が課題となり、口腔への関心が増した。

しかし 動ける高齢者ほど 口の中を見せてもらうことは難しいと感じる

また 口の中はちょっと見ただけでは暗くて見えない

そこで **口の中を見なくても予想がつく？**

いつ見るの？

訪問時いつでも

- 自分の歯ブラシがあるの
- 歯ブラシを使っているかどうか
- 歯ブラシを洗っているか

何を見るの？



どう

歯ブラシがないと、食べかすはベッタリ、毛先が開いていれば、磨き残しあり
汚れた歯ブラシで歯みがきすれば、口の中に雑菌を増やし誤嚥性肺炎に…

- 食べる時間がかかる



誰でも見れる。見ることから始まる連携

訪問依頼の内容

- 例)
- 1、最近食べ始めると、入れ歯を出してしまう
 - 2、食後歯磨き介助のとき歯ブラシに血がついている
 - 3、自分の歯があるが、口腔ケア介助はどのようにしたらよいか
 - 4、本人が歯が痛いような気がするというがはっきりしない
 - 5、食事中に必ずむせるが口腔からの対策はあるか
 - 6、口腔ケアを行おうとするが口を開けてもらえない
 - 7、本人の口臭が気にかかる
 - 8、話をしている時、食べている時入れ歯が動いている



在宅訪問歯科健診事例-1

- 1、紹介理由 ケアマネジャーから「本人が食べると歯が痛むと訴えあり」
- 2、状 況 女性92歳 病名 骨粗鬆症 要介護度 4 娘家族と同居
転倒し左大腿骨骨折で入院 1週間前に退院した
- 3、事前訪問 歯科衛生士
在宅での状況確認(ベッド上で横になっている)
口腔内確認 「初回歯の状態と口腔機能 アセスメント票」を利用
- 4、訪問歯科健診 歯科医師2名 口腔内診査 口腔内撮影 口腔内状況を娘に伝える
歯科衛生士1名 健診介助
- 5、健診結果
 - ① ブリッジが上下奥、上前にあり、義歯の必要なし。
 - ② 歯茎の腫れにより、噛むといたみを感じ、食事に支障あり。
 - ③ かかりつけ歯科医へ健診結果を伝える→内服薬が処方された。
- 6、経過観察
 - ① 歯科衛生士 月1回 口腔・義歯ケア・嚥下確認、健口体操を行う。
 - ② 歯ぐきが腫れてくるようならかかりつけ歯科医へ連絡をとる。
- 7、効 果
 - ① 疼痛が消失し痛みがなく食事摂取できるようになった。
 - ② 口腔ケアから誤嚥性肺炎予防になり、舌、口の体操から口腔機能向上につながった。

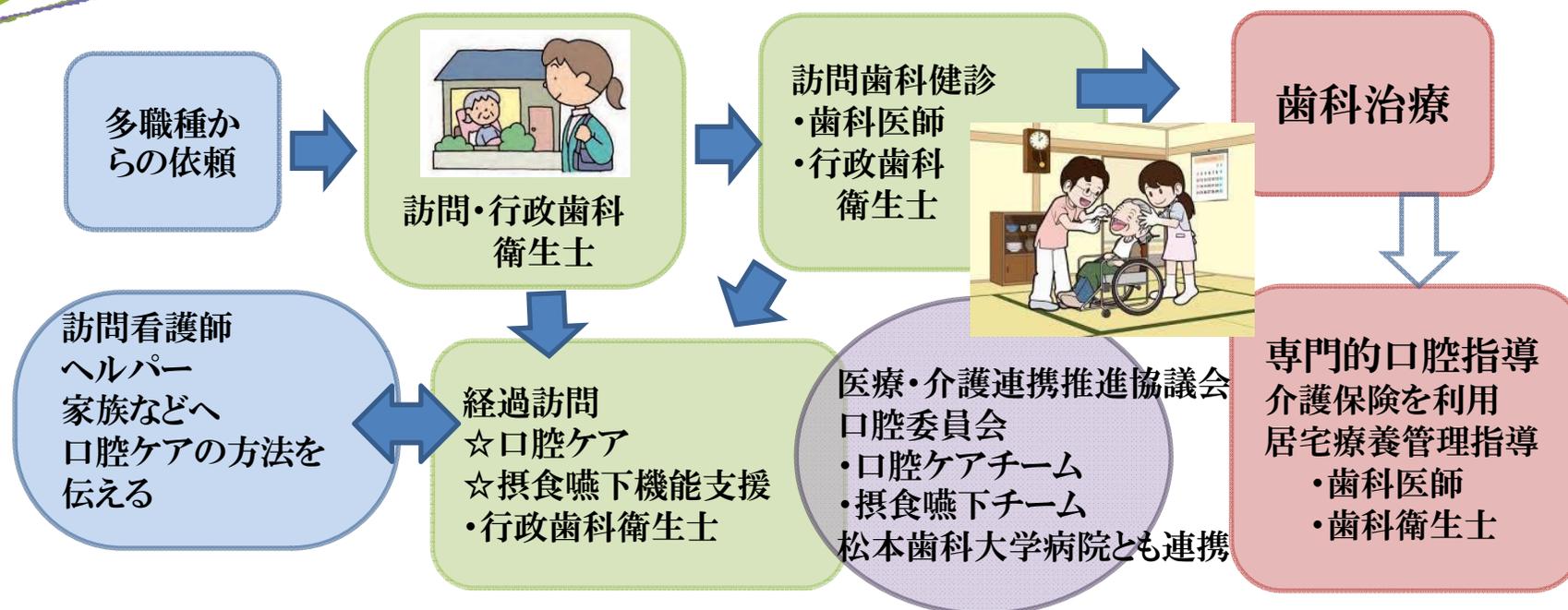
在宅訪問歯科健診事例-2

- 1、紹介理由 娘から「どのように父の口腔ケアを行えば良いのか」
- 2、状 況 男性72歳 病名 脳梗塞 要介護度5 右麻痺 ベッド上の生活
- 3、事前訪問 歯科衛生士 口腔ケアの方法を伝える
歯科医へは数年かかっていたため、在宅訪問歯科健診を希望された
- 4、訪問歯科健診 歯科医師2名 口腔内診査 口腔内撮影 状況を伝える
歯科衛生士1名 健診介助
- 5、健診結果
 - ① 現状では、歯科治療の必要は無い。
 - ② 歯周病のケアは必要。
- 6、経過観察
 - ① 歯科衛生士 月1~2回訪問で経過観察行う。
 - ② 口腔ケア・口腔機能リハビリ(舌、口)・唾液腺マッサージ等行う。
 - ③ 歯ぐきの腫れなどは訪問歯科治療につなげる。
- 7、効 果
 - ① 口腔ケアから口臭予防 食欲の増進につながった。
 - ② 舌、口の体操から飲み込みの改善につながった。

在宅訪問歯科健診事例-3

- 1、紹介理由 ヘルパーから「最近入れ歯をすぐ外してしまい、食べる量も減っている」
- 2、状況 女性88歳 病名 脳梗塞 介護度4 独居 ベッド上の生活
- 3、事前訪問 歯科衛生士 義歯と口腔内をチェック
入れ歯の不適合による歯ぐきの傷があり、在宅歯科健診を勧める
- 4、訪問歯科健診 歯科医師2名 口腔内審査 口腔内撮影 義歯調整
歯科衛生士1名 健診介助
- 5、健診結果 義歯の調整をおこなった
- 6、経過観察
 - ① 歯科衛生士がヘルパーに連絡し食事の様子聞き取りを行った。
 - ② 義歯を入れて食べられるようになった。
- 7、効果
 - ① 本人の訴えはなかったが、介助者からの連絡で早期に義歯不適合がわかり訪問歯科健診につなげられた。
 - ② 訪問歯科健診で義歯調整を行い、食べられるようになり、体調も崩すことなく通常の生活に戻ることができた。

塩尻市訪問歯科健診・健診後のケア・口腔機能向上支援連携



現状と課題

- ※ 口腔ケア・摂食嚥下の支援において、要支援～介護度2くらいは本人を中心に予防的対応を行い、介護度3以上に対しては重症化予防に介護に関わる方々と経過訪問対応が必要と思われる。
- ※ 糖尿病・リウマチなど歯周病とかかわりのある疾患を持つ方は個別の口腔ケアを行うことで重症化予防となるため、医師との連携が必要である。
- ※ 介護保険の居宅療養管理指導の歯科が必要な方に使われていない。
- ※ 口腔に係る居宅療養管理指導の利用を関係者に広めることが課題と思われる。

多職種と顔の見えるチーム連携を目指す

チームの目的

- 「食べる楽しみ」という人間の基本的欲求や生活の質を保つ
- 栄養・食事・口腔衛生状態をチェック・評価し、多くの専門職との連携により治療や訓練をすることで、食べる機能の回復や誤嚥性肺炎を予防し、日常生活における活動性の向上を目指す

歯科医師

- ▽口腔領域の器質および口腔機能にかかわる摂食・嚥下機能を診断、評価
- ▽機能回復に必要な歯科治療、摂食・嚥下リハビリテーション・口腔ケアの実施及び指導管理

歯科衛生士

- ▽口腔衛生状態を観察・評価
- ▽専門的口腔清掃
- ▽口腔機能向上

ケアマネージャー

要介護者 家族

医師・看護師

- ▽全身管理・サポート

訪問介護サービス 生活支援サービス

管理栄養士

- ▽食べられる食事
- ▽栄養状態の評価
- ▽食事形態など細かな栄養指導

言語聴覚士

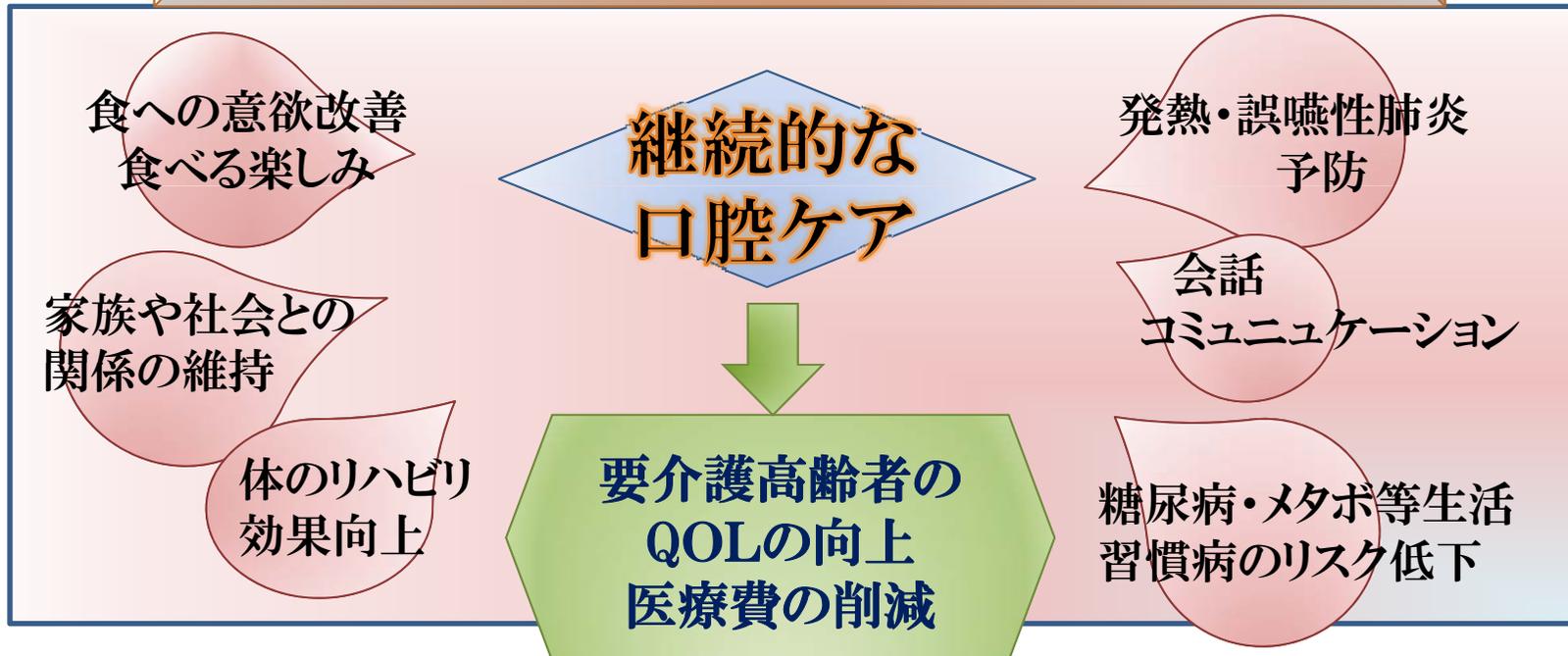
- ▽口腔・嚥下機能の評価と基礎訓練
- ▽摂食嚥下訓練
- ▽高次脳機能障害訓練

作業療法士

- ▽食べるための姿勢の維持
- ▽腕・手指の巧緻性(箸を持つなど)の訓練

期待が持てる！ これからの口腔ケア

多職種の方々が口腔への関心を持っていただける事で…



塩尻市は信州大学口腔外科の研究に参加し、国保特定健診会場で歯科健診を行い、生活習慣病と口腔の関係を調査しています。

28年度で3年目となり、歯周病と医療費の関連を現在レセプトからも追跡しています。

木曾漆器



曲物



長野五輪メダル

ご清聴ありがとうございました。